

# 「地域振興に寄与し新規就農者も確保」

(奈良県生駒郡平群町農業委員会)

担い手への  
農地利用の  
集積・集約化

遊休農地の  
発生防止・  
解消

新規参入の  
促進

その他(農業  
委員会の体  
制強化等)



**【農業委員会の体制】**  
農業委員: 14名  
農地利用最適化推進  
委員: 4名



## 1 地区の特徴・状況、課題

- 平群町は奈良盆地の北西部に位置し、大阪府とも接しており、都市近郊のベッタウンとして発展してきた。その一方で、農業が基幹産業となっており、夏秋期において日本一の生産量を誇る小菊をはじめ、その他にもバラ、ブドウ、イチゴなど高収益作物の栽培が盛んであり、単位面積当たりの農業産出額が県内1位となっている。また、販売農家のうち、専業農家率が55.6%と県内においても特に高く、活気ある農業が展開されている。
- 主要農産物を中心に、担い手や後継者は一定数いるが、全国的な少子高齢化の影響もあり、農家数は減少傾向であり、近年では後継者不在により廃業する農家や、遊休農地も増加傾向にある。

## 2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

- 農業委員、農地利用最適化推進委員が連携し、随時農地パトロールを実施して、遊休農地の発生防止に日々努めている。また年に1回、農家組合長などとも連携して利用状況調査を実施し、委員会だけではなく、地域全体で情報を共有することで、より精度の高いものとし、農地の利用集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消に役立てている。
- 地域住民との交流を図ることを目的とし、町内の各種イベントへ積極的に参加し、地域貢献と委員会業務の宣伝活動を行っている。令和元年度においても複数回参加し、またその中で、特産品の販売、営農相談や新規就農者の募集などを行った。